

1949

みさかお

時のきざむのき じつとそつてい

何もするにと大い

何かしつと とも見やをい

ホニヤリ 扶態だ

いそおしいに終る身と 二の扶態か

フブツてりよ

頭の中 何もある

いつもの株と存りたい もどりにい

こんろ朝のめがうしい

そうだ 外を見てこよう

我 ころや だめだ

あさおち 勢よく何をふさいでしまつた

からあつ所を見つたうとして

つる 本空をそつてい

つる かつかまの所をさおしてい

何をあつて 人木入ろくとして

何をもつつ だかりする

ひとばんどの 出来ごと

昨日 ティルクス 大なる荷物と ちつて

来たばかりだ

その隣に返した

一段と変化して

左キリがきかた

切子があつたビリにかにあつてしな

琉球切子があつた

葉の切り下して大さ

ちのひまわりはそれこそ

花が貝えり

とこへ行くのなか葉でかきながら

植物はつらひ人よりつと

木にやりしていらぬ

切子があつたにやがて

2023
9/3